

県の環境施策について、提言をお寄せください。

岡山県では、「岡山県環境基本条例」に基づき、みなさんから広く環境を守り育てるための提言を募集しています。ふるさと岡山をよりよくしていくためのアイデアをお寄せください。

◎資格:岡山県内に住んでいる人、または県内に通勤・通学している人など。

◎内容:身近な環境から豊かな自然まで、広く環境についての提言。
(ただし、裁判所で係争中の事項等をのぞく)

◎手続き:書面に必要な事項と提言の趣旨・理由を記入の上、岡山県環境保全委員会までご提出ください。郵送やファックスでもかまいません。

寄せられた提言の流れ

提言する人:提言書を提出し、必要に応じて資料の提出や説明を行います。

岡山県環境保全委員会:提言について調査・審議を行い、必要があると認めるときは知事などに意見書を提出します。また、提言及び調査審議の状況を公表します。

知事など県の機関:岡山県環境保全委員会の意見を尊重し、必要な措置を講じるよう努めます。

※お問い合わせは 岡山県環境政策課(下記)へ

〈お問い合わせ先〉

環境教育・環境学習推進プロジェクト
環境政策課 TEL.086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp
岡山県環境保健センター TEL.086-298-2681
e-mail kanpo@pref.okayama.lg.jp
岡山県自然保護センター TEL.0869-88-1190
e-mail fvbs5490@mb.infoweb.ne.jp

環境パートナーシップ構築プロジェクト
環境政策課 TEL.086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp
自動車公害対策プロジェクト
環境管理課 TEL.086-226-7302 e-mail kankanri@pref.okayama.lg.jp
有害化学物質削減プロジェクト
環境管理課 TEL.086-226-7305 e-mail kankanri@pref.okayama.lg.jp
水環境保全プロジェクト
環境管理課 TEL.086-226-7304 e-mail kankanri@pref.okayama.lg.jp
快適生活空間創造プロジェクト
環境政策課 TEL.086-226-7298 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp
ごみゼロ社会プロジェクト
廃棄物対策課 TEL.086-226-7307 e-mail haikibutu@pref.okayama.lg.jp
自然との共生プロジェクト
自然環境課 TEL.086-226-7309 e-mail sizen@pref.okayama.lg.jp
地球温暖化防止プロジェクト
環境政策課 TEL.086-226-7297 e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp

※アースキーパーメンバースhipについては
岡山県地球温暖化防止活動推進センター
TEL.086-298-1225 e-mail stopco2@kankyo.or.jp

おかやま環境レポート 2005

岡山県 生活環境部 環境政策課

〒700-8570 岡山市内山下2-4-6

TEL.086-226-7298 FAX.086-231-8094

e-mail kansei@pref.okayama.lg.jp

岡山県ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

R100

古紙配合率100%、白色度70%の再生紙を使用しています

おかやま環境レポート 2005

平成17年版

岡山県環境白書(概要版)



エコビジョン
2010

岡山県環境基本計画

未来を見つめた県民参加のエコプロジェクト、現在進行中。

岡山の豊かな自然と歴史的な地理風土は、県民みんなの大切な財産です。きれいな空気や水環境、豊かで身近な自然、美しい景観など、「晴れの国」にふさわしい健全な環境を守り、未来へ継承していくために、岡山県では、「岡山県環境基本計画・エコビジョン2010」を推進。2010年度（平成22年度）までの具体的な目標を定め、行政、事業者、県民それぞれが主体となった取組を進めています。

理念 健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受し、将来の世代へ継承

持続的な発展が可能な社会の構築

環境への負荷の低減

人と自然との共生の確保

地球環境保全の積極的な推進

社会のあらゆる構成員の参加

基本目標と施策

基本目標ごとに環境の現状と課題を整理し、計画目標を定め、県民・事業者の参加のもとに行政が行う主要施策を明らかにするとともに、重点的に取り組むプロジェクトを示しています。

協働による環境保全

- 環境パートナーシップ構築プロジェクト
- 環境教育・環境学習推進プロジェクト

1 空気をきれいに保ちます

- 自動車公害対策プロジェクト
- 有害化学物質削減プロジェクト

2 水をきれいに保ちます

- 水環境保全プロジェクト

3 静けさと快適な環境を保ちます

- 快適生活空間創造プロジェクト

4 循環型社会を構築します

- ごみゼロ社会プロジェクト

5 豊かな自然を保ち、自然とのふれあいを確保します

- 自然との共生プロジェクト

6 地球環境を守ります

- 地球温暖化防止プロジェクト

それぞれの施策をスムーズに進めるために、共通する基盤的な施策を進めています

条例等の見直し、充実

環境影響評価の推進

環境保全のための費用負担意識の普及等

県の事業者・消費者としての率先行動

環境情報の収集・公開・公表

調査研究の推進

岡山県では、率先して環境配慮に取り組むため、ISO14001規格に基づく岡山県環境マネジメントシステムを導入しています。この環境マネジメントシステムの運用により、エコビジョン2010の効果的・効率的な推進を図っています。

協働による環境保全

環境問題は、私たちの日常生活や事業活動と深く結びついています。環境保全をすすめるためには、県民の皆さんや事業者、NPO、行政などによる「協働」が欠かせません。岡山県としても、協働による環境活動を促進する仕組みづくりを進め、また参加する人・団体の支援に取り組んでいます。

県民参加

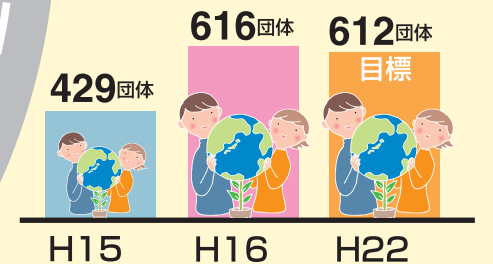


●協働による環境保全活動の推進

地域ぐるみで街や川・海をクリーンアップ。

協働による美しい環境の創出と環境保全意識の高揚を目指して、住民グループ等と県、市町村との連携による道路、河川、児島湖、海岸の環境美化活動（アダプト事業）を推進しています。

アダプト実施団体数



岡山の環境を守る取組に、家族や社会、地域ぐるみで参加する人が増えています。

環境パートナーシップ構築プロジェクト

- 環境パートナーシップの推進
- 協働による環境保全活動の推進
- 環境情報の共有化推進
- 環境パートナーシップ拠点施設の整備・運営

環境教育・環境学習推進プロジェクト

- 環境学習拠点の整備
- 環境教育・環境学習の支援体制整備
- 学校における環境教育・環境学習の推進



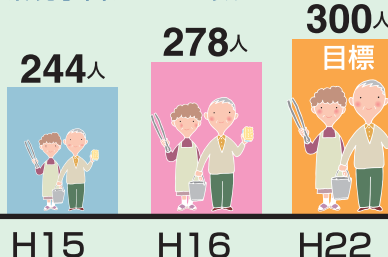
●環境教育・環境学習の支援体制整備

みんなの心に環境への思いやりが育っています。

県民一人ひとりが地域の環境について知り、環境保全に取り組む意識を高めるため、環境学習リーダー等の人材育成や、子どもたちの自主的な環境活動である「こどもエコクラブ」の活動を支援しています。

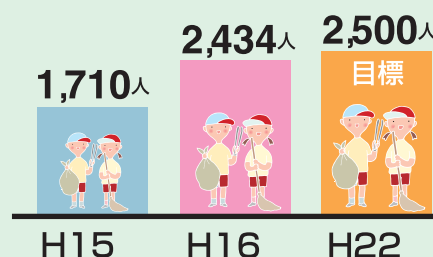
県民参加

環境学習リーダー数



県民参加

こどもエコクラブの会員数



第1章

おかやま環境レポート2005

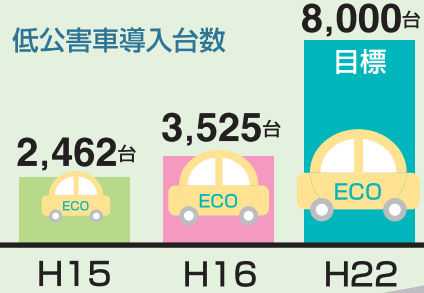
空気をきれいに保ちます

大気汚染の原因として、近年は自動車交通量の増加による排出ガスが大きな割合を占めています。また産業分野においても、多様な化学物質が使用されるにつれ、これらによる新たな環境汚染が懸念されています。そこで県では、「自動車公害対策」と「有害化学物質の削減」を重点プロジェクトに設定。具体的な取組を進めています。

自動車公害対策プロジェクト ●低公害車の普及・導入

街で見かけはじめたエコカー。いずれは当たり前前の光景に。

大気汚染物質を排出しない電気自動車や、窒素酸化物等の排出量の少ないハイブリッドカー、天然ガス自動車等低公害車の普及・導入。



県民参加

エコカー購入の検討を

車の整備・点検は定期的に

アイドリング・ストップを心がけましょう

アクセルワークに気を配りましょう

一定速度での走行を心がけましょう

澄みきった空気・青い空をいつまでも。

自動車公害対策プロジェクト

- 総合対策 ●発生源対策 ●交通需要マネジメント施策
- 低公害車の普及・導入 ●アイドリング・ストップ運動等の推進

有害化学物質削減プロジェクト

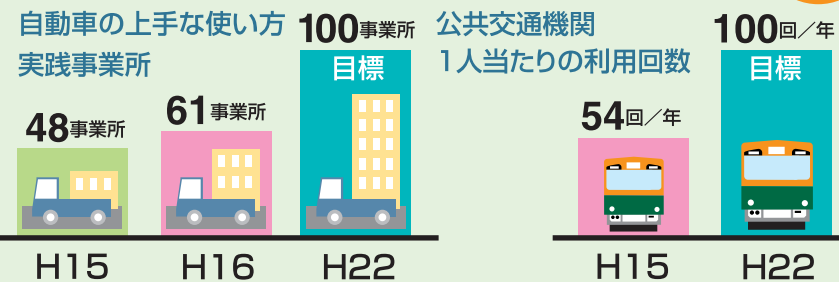
- 環境への排出量などの把握 ●排出量の集計・公表
- 自主的な管理の促進 ●排出抑制
- 環境モニタリングの充実

自動車公害対策プロジェクト

- アイドリング・ストップ運動等の推進
- 交通需要マネジメント施策

環境にやさしい運転を会社をあげて取り組もう。

アイドリング・ストップの実践や経済速度での走行など、環境に配慮した運転マナーの推進に取り組む事業所の増加を目指しています。



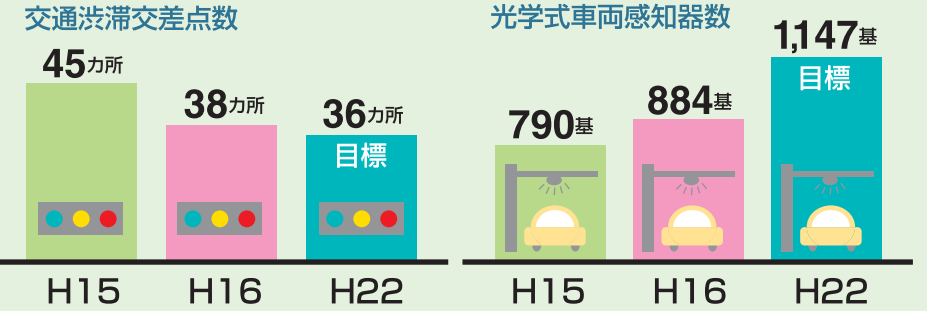
県民参加

県民参加

自動車公害対策プロジェクト ●交通渋滞対策

交通渋滞交差点数を減らし、渋滞を緩和。停車中の排出ガス量を削減しています。

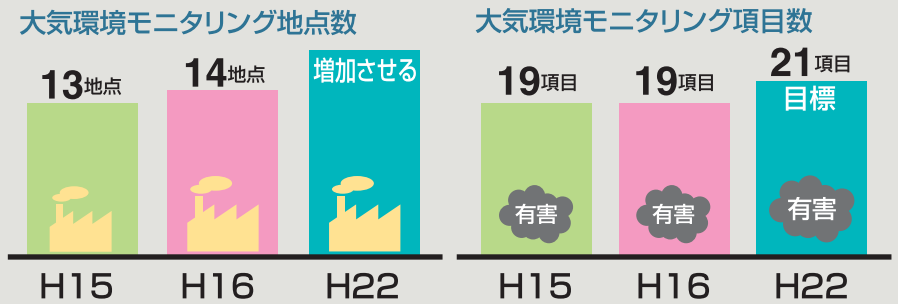
交通情報収集提供装置を充実させ、交通を平滑化。渋滞を緩和することで、排出ガスの削減を目指しています。



有害化学物質削減プロジェクト ●環境モニタリングの充実

調査地点と調査項目を増やし、監視の目をさらに厳しく。

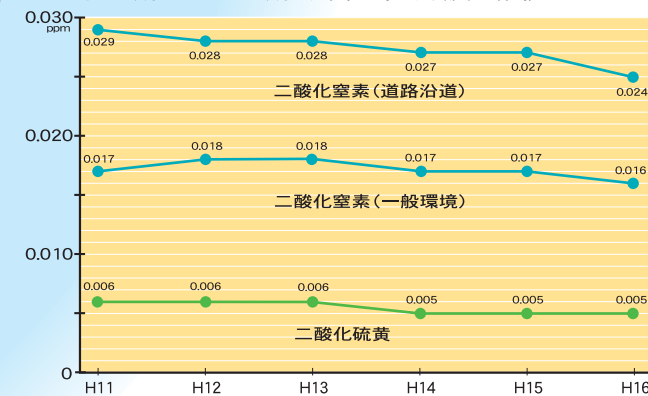
工業分野や農業分野において使用されている化学物質の中には、微量でも極めて有害な物質があります。これらの物質による環境汚染を未然に防止するため、モニタリング等により実態の把握に努めます。



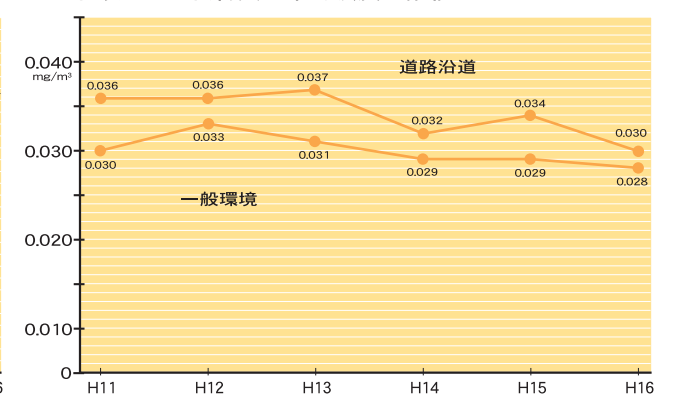
大気汚染の現状と課題

重点課題である大気汚染状況を監視するために、県内72カ所に測定局を設置しています。なお、光化学オキシダントは、全測定局で環境基準非達成となっていますが、全国的に見ても環境基準達成率は0.3%と広域的な課題となっています。

●二酸化窒素・二酸化硫黄の平均濃度の推移



●浮遊粒子状物質の平均濃度の推移



●環境基準達成状況(主な項目)

測定汚染物質	環境基準値	達成状況
二酸化窒素	1日平均値0.06ppm以下	59/60測定局達成
二酸化硫黄	1日平均値0.04ppm以下	全測定局(55)達成
光化学オキシダント	1時間値0.06ppm以下	全測定局(41)非達成
浮遊粒子状物質	1日平均値0.10mg/m³以下	59/63測定局達成
ダイオキシン	年平均値0.6pg-TEQ/m³以下	全測定局(14)達成
ベンゼン	年平均値0.003mg/m³以下	10/11測定局達成

第2章

おかやま環境レポート2005

水をきれいに保ちます

高梁川・旭川・吉井川の三大河川や美しい瀬戸内海を持つ岡山。その豊かな水資源は、私たちの暮らしに欠かせないものです。しかし都市化や生活様式の変化とともに、生活排水などによる水質汚濁が大きな問題になっています。県としても、水質の浄化や、水中・水辺の生き物を守り増やすための取組を急ピッチで進めています。



心がけ次第で水環境は守られます。

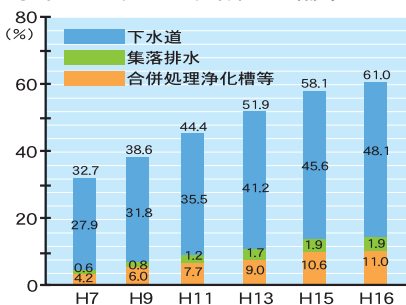
水環境保全プロジェクト

- 清流保全
 - 岡山県清流保全総合指針の普及啓発
 - 森林、農地等の保全
 - 生活排水対策の推進
 - 河川等の自然浄化機能の維持向上
 - 水辺の生態系の保全
 - 清流保全意識の高揚と清流保全活動の促進
 - 上下流域の交流
 - 出会いとふれあいの水辺づくり
- 瀬戸内海・湖沼水質保全
 - 自然景観の保全
 - 藻場及び干潟等の保全
 - 埋立てに当たっての環境保全に関する配慮
 - 水辺の生態系の保全
 - 児島湖に係る水質保全計画の推進
 - ダム湖周辺地域での排水対策
 - ダム湖の水質浄化対策等
- 有害化学物質の削減
 - 自主的な管理の促進
 - 土壌及び地下水の汚染防止
 - 環境モニタリングの充実等

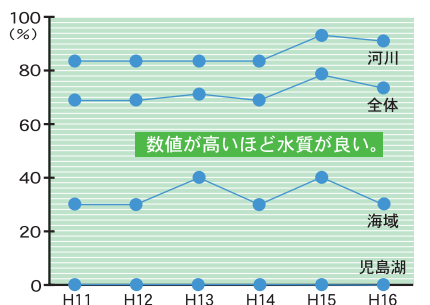
水環境の現状と課題

県内の河川・湖沼・海域の水質調査では、環境基準非達成の地点もみられるものの、BOD・CODの達成率は、ほぼ横ばい状態で、水をきれいにするには、生活排水の対策(公共下水道や合併処理浄化槽などの普及)を推進しなければなりません。

●県内下水処理施設の整備率



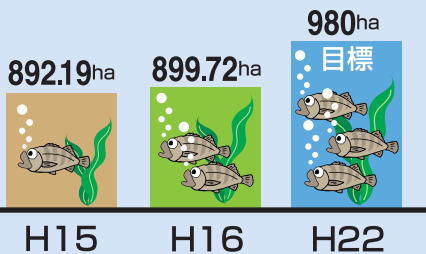
●県内公共用水域の環境基準の達成率(BOD・COD)



●藻場及び干潟等の保全

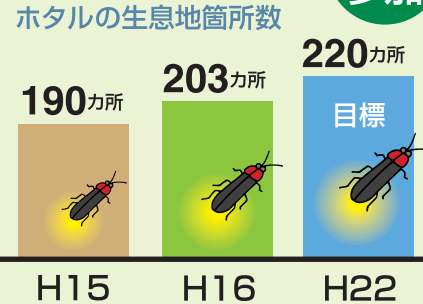
魚の群れ泳ぐ姿があちこちに見られるそんな瀬戸内海に藻場・干潟等の保全・再生を進め、メバルをはじめ瀬戸内海の魚類等の生息環境を高めています。

メバル生息適地(藻場)の造成



●水辺の生態系の保全

川辺にはホタルも戻り始めています。県内の河川の多くは、現在でもきれいな水と豊かな水量に恵まれています。都市周辺やダム湖など、一部では水質汚濁の進行が見られ、また、開発に伴う森林の減少による水量や水質への影響も懸念されています。県内の河川の清流を将来にわたって保全し、動植物が豊富に生息・生育出来る河川空間を形成します。



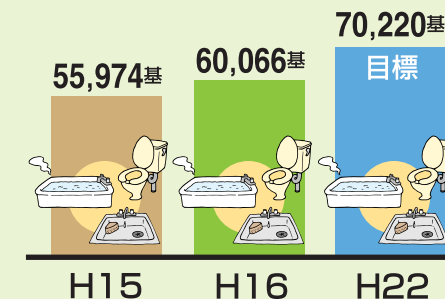
県民参加

●生活排水対策の推進

生活排水の浄化を徹底的に推進

公共下水道を整備するほか、地域の実績に応じて集落排水処理施設、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備を図ります。

合併処理浄化槽の設置基数

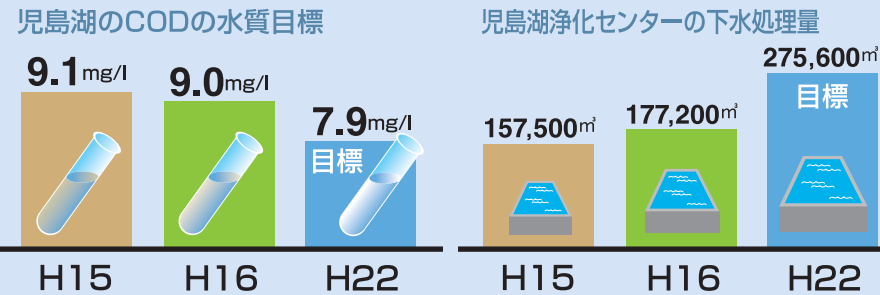


県民参加

●児島湖に係わる水質保全計画の推進

児島湖再生にむけ、多方面からの対策を全力で進行中

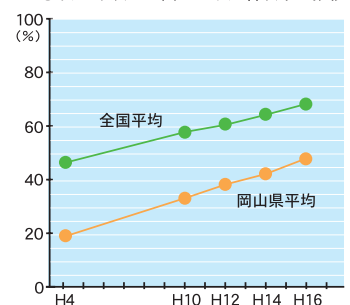
流域下水道や合併処理浄化槽などの整備を進めるとともに、湖畔のアダプト活動の推進など、各種の浄化対策を全力をあげて実施し、児島湖の水質保全を図っています。



県民参加

測定項目	達成状況
BOD	河川 28/31水域で達成
COD	海域 湖沼 3/10海域で達成 児島湖は未達成(9.0mg/l)
窒素・りん	海域 湖沼 7/8海域で達成 児島湖は未達成(窒素1.5mg/l・りん0.21mg/l)
健康項目(26物質)	公共用水域全地点(123)で達成
ダイオキシン類	河川・海域・湖沼 水質・底質全地点(129)で達成 土壌 全地点(60)で達成 地下水 全地点(48)で達成

●岡山県及び全国の下水道普及率の推移



第3章

おかやま環境レポート2005

静けさと快適な環境を保ちます

自動車をはじめとする交通手段の発達により、道路や鉄道、空港周辺で発生する騒音・振動への対策が求められています。また同時に「景観」への意識が高まるなか、町並みの計画的な整備や落書き、屋外照明による光害等への対策も課題となっています。県では、「快適生活空間創造」を重点プロジェクトとし、諸問題の総合的な解決を目指しています。

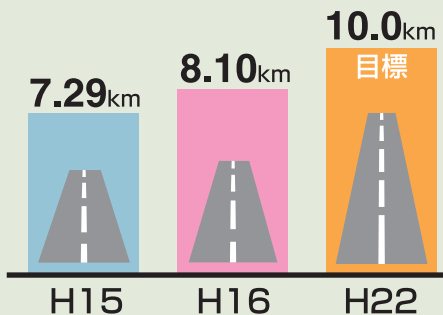


●騒音・振動の削減

騒音の出にくい、新しい舗装の道路が増加中。自動車による騒音の低減に効果をあげています。

自動車社会の発展は、私たちの生活を便利にした反面、交通量の増加にともなう騒音が問題になっています。その対策として県では、騒音の出にくい舗装の道路を着々と導入。騒音問題の解決に効果を発揮しています。

低騒音舗装道路延長(2車線換算延長)



騒音問題や落書きをなくして 快適な生活環境を守ろう。

快適生活空間創造プロジェクト

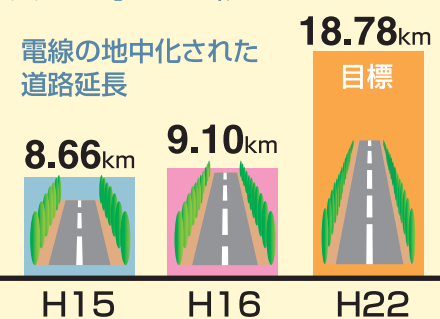
- 自動車等の対策
- 電線類の地中化の推進
- 快適で安心な都市景観・まちづくりの推進
- 落書き除去活動の支援
- 光害防止の支援

- 音への気配り忘れずに
- 静かな運転を心がけよう
- 空き缶や吸い殻を捨てない
- 落書きは放置しない
- 自動車の放置はやめましょう

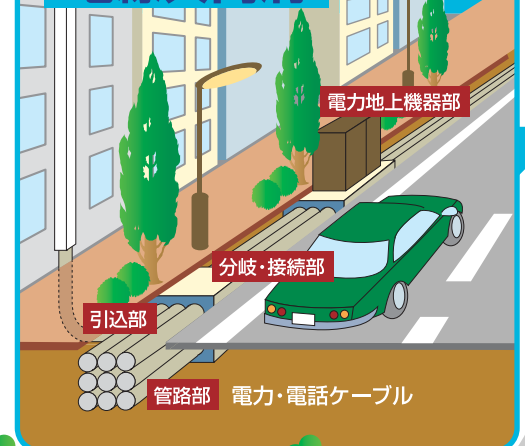
●電線類の地中化の推進

電柱や電線のない美しい町並みが誕生しています。

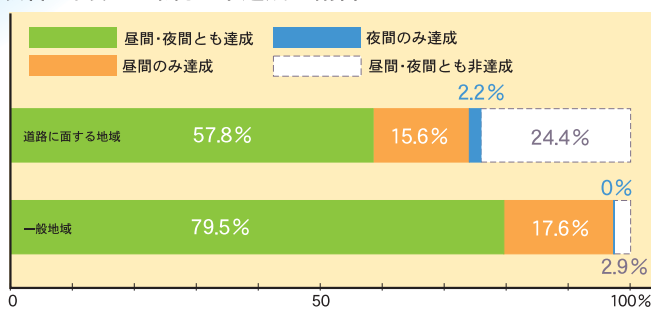
美しい都市景観を創出するために、上空を占有し美観をそこねる電線類の地中化を推進。電柱や電線のないきれいな町並みも徐々に増えています。



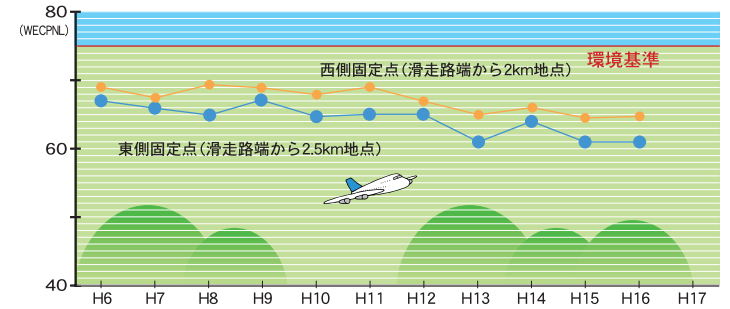
電線共同溝



●騒音に関する環境基準達成の割合



●航空機騒音状況(岡山空港)



静けさ・快適環境の現状と課題

県内各地の道路・新幹線鉄道・空港周辺の騒音・振動測定では、振動については全地点で要請限度と指針を達成したものの、騒音は特に道路に面する地点で非達成の地域も。こうした自動車による騒音の低減と、町並み・景観の美化対策を進めていくことで、「快適生活空間」が実現していきます。

測定項目	達成状況	
騒音	一般騒音	一般地域27/34地点、道路に面する地域23/45地点で達成
	新幹線鉄道騒音	1/9地点で達成
	航空機騒音	全2地点で達成
振動	道路交通振動	全17地点で達成
	新幹線鉄道振動	全9地点で達成
美観	電線の地中化	9路線で電線類地中化事業を実施(県管理道)

第4章

おかやま環境レポート2005

循環型社会を構築します

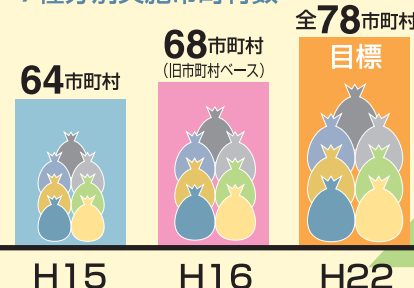
経済性や効率・利便性を優先した大量生産・大量消費・大量廃棄型社会は限りある資源を浪費し、廃棄物による自然への負荷を深刻化させています。その対策として岡山県では「ごみゼロ社会」の実現を重点プロジェクトに定め、ごみの削減やリサイクル利用を積極的に推進しています。県民参加によるごみ減量化対策はすでにその効果を現し始めています。

ごみゼロ社会プロジェクト ● 廃棄物減量化の推進

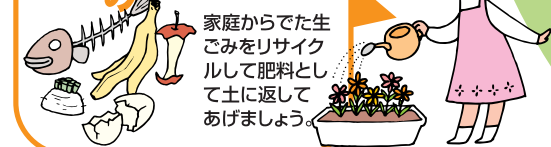
ごみゼロ・再利用の輪を広げていきます。

県民の皆さんの理解と協力を得ながら、ごみの減量・リサイクルを推進します。ごみの7種分別回収の徹底を近い将来には全市町村へ導入します。事業者による産業廃棄物の排出抑制によるリサイクルを一層推進します。

7種分別実施市町村数



生ごみリサイクルのすすめ!



県民参加



「捨てる」の意識改革で ごみの量を減らしましょう。

ごみゼロ社会プロジェクト

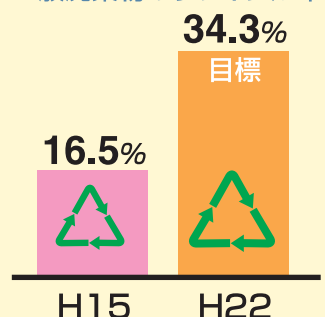
- 廃棄物の減量化の推進
- 廃棄物の有効利用の推進
- 再生品の使用の促進
- エコタウン事業の推進等
- 公共事業における建設副産物の有効利用等

ごみゼロ社会プロジェクト ● 再生品の使用の促進

岡山県認定のリサイクル製品も続々と登場。

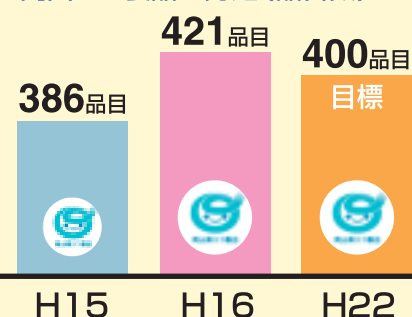
県内で製造されているリサイクル製品であって、県が定める認定基準を満たした製品を「岡山県エコ製品」として認定する制度を創設。平成16年度までに421もの製品が誕生しました。

一般廃棄物のリサイクル率



再生商品となって再び消費者のもとへ

岡山エコ製品の認定(品目数)

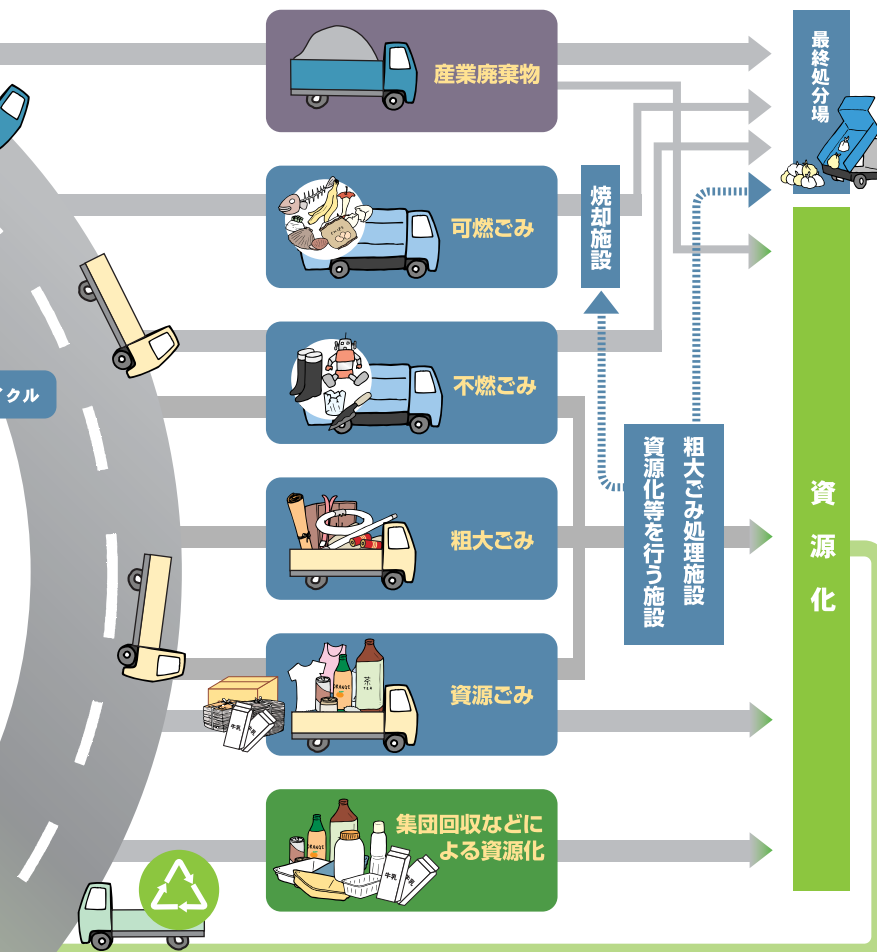
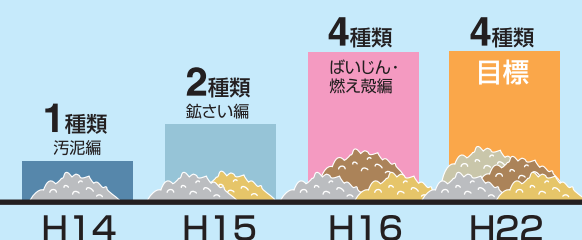


ごみゼロ社会プロジェクト ● 廃棄物の有効利用の推進

産業廃棄物もリサイクル

産業廃棄物の種類ごとに排出抑制策等を定めた「ごみゼロガイドライン」を策定、事業者の自主的取組を促進、再生品の使用を広げています。

ごみゼロガイドラインの策定(種別数)

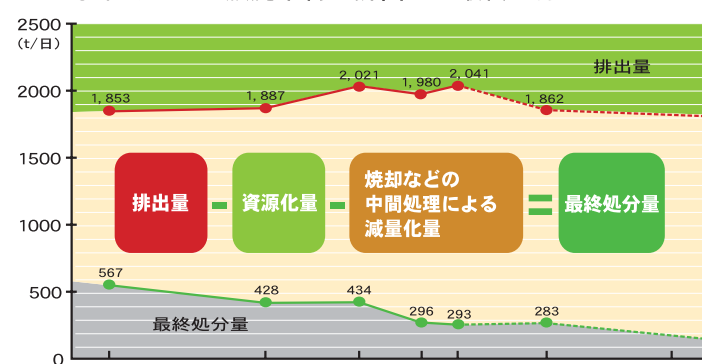


廃棄物・リサイクルの現状と課題

県民の皆さんの意識向上や、分別・リサイクルの実践活動が浸透していった結果、ごみの最終処分量は減少傾向に転じています。平成22年度までの各種目標を確実に達成するためには、今後も県民・事業者・行政が一体となり、資源の循環的な活用をますます促進していかなければなりません。

一般廃棄物対策

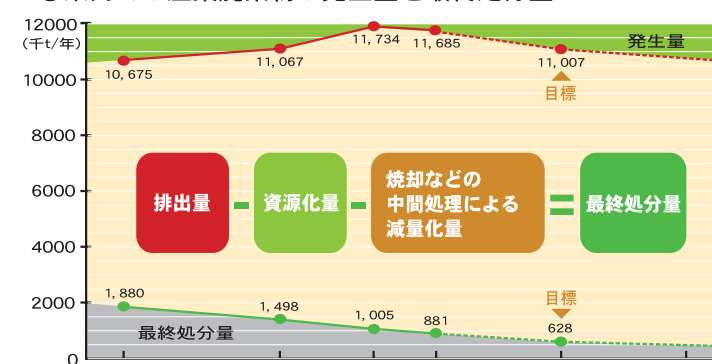
● 県内での一般廃棄物の排出量と最終処分量



- 徹底した分別収集
- 再使用・再生利用を一層推進
- 適正な焼却処理や埋立処分
- 処理施設の計画的な整備

産業廃棄物対策

● 県内での産業廃棄物の発生量と最終処分量

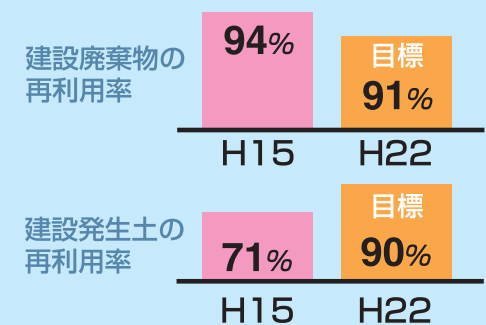


- 適正処理の向上のための監視・指導
- 発生量の抑制、再生利用、適正処理の促進
- 建設廃棄物の排出抑制、資源化、再生利用等の推進
- 不法投棄防止のための組織作り
- 処理業者の処理技術の育成・指導
- 処理業者の定期的立入検査実施

ごみゼロ社会プロジェクト ● 公共事業における建設副産物の有効利用

建設副産物を有効に活用

建設副産物を資源として有効活用するために、公共事業での再利用を進めます。



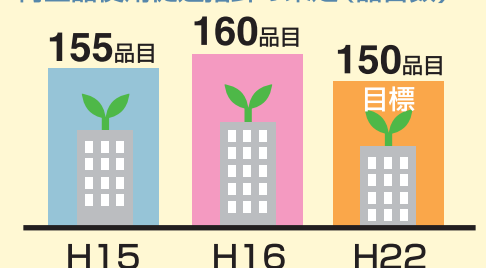
県民参加

ごみゼロ社会プロジェクト ● エコタウン事業の推進及び環境にやさしい企業の認定

岡山エコタウンプランの推進と岡山エコ事業所認定制度

岡山県循環型社会形成推進条例の実行行動計画となる基本構想で、地域ぐるみの先導的なハード・ソフト事業を展開しています。また、環境にやさしい取組みをしている事業所を認定し、ゼロエミッション等の推進に努めています。

再生品使用促進指針の策定(品目数)



第5章

おかやま環境レポート2005

豊かな自然を保ち、自然とのふれあいを確保します

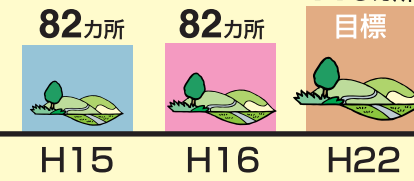
中国山地・吉備高原・瀬戸内海と多様な自然を持つ岡山県。しかし都市化や開発が進む中で、自然環境の保全や野生動植物の保護が、緊急の課題となっています。また一方で、環境に対する県民意識の向上とともに自然とのふれあいを求めるニーズも増大。県では「自然との共生」を重点プロジェクトに自然保護やふれあいの場の創造にむけた各種の取組を実行しています。

●保護地域の拡大と保全の推進

貴重な自然へさらに手厚い保護を

自然公園や郷土自然保護地域などの指定地域を拡大すると同時に、指定希少野生動植物を指定し、貴重な動植物・自然林・湿地・水辺などの保護対策も強化しています。

自然保護条例による指定地区数



県民参加



自然環境の現状と課題

生物多様性を確保し、野生動物との共生を図っていくためにも、残されている自然を大切に守っていくことが重要課題。また自然保護に関する啓発活動や、身近に自然と触れあえる場を増やす取組も、積極的な推進が必要です。県としても自然公園等の指定地拡大による保護や都市公園の整備、希少野生動植物保護事業の推進など、各種事業を広く展開しています。

●自然保護対策の計画と達成状況

計画目標	達成状況
自然公園の面積拡大	県土の14% 県土の11% 国立公園2地域、国定公園1地域、県立自然公園7地域
生物多様性の確保・野生動物との共生	指定希少野生動植物3種を指定 保護専門員、保護巡視員を委嘱
森林の減少防止・緑の質的向上	県土の68.1% 県内の森林面積484,500ha
都市公園の拡充	県民一人当たり20㎡ 県民一人当たり10.2㎡を13.6㎡に拡大



動植物が安心できる場所は、人も健やかに暮らせます。

自然との共生プロジェクト

●自然とのふれあいの場確保

「こんな水辺で遊びたい・憩いたい」を現実の光景にしています。

地域の人たちが水辺の自然とふれあい、親しめる場を増やしていくために、「出会いとふれあいの水辺づくりモデル事業」を展開。住民のニーズに基づく河川環境の整備を進めています。

水辺づくりモデル事業の実施河川数



●道路、河川、公共施設等の緑化

生き物たちを呼び戻す自然に近い川を作っています。自然との共生に配慮した河川を増やしていくために、多自然型護岸の整備を促進します。

多自然型護岸の延長 (平成13年度比較)

年度	延長 (m)
H15	10,210m
H16	15,245m
H22	46,000m(目標)



- 県自然環境保全地域**
 - 塩滝
 - 大平山・権現山
 - 鯉が窪
- 郷土自然保護地域**
 - 大滝山
 - 和意谷
 - 浅原
 - 熊山・奥吉原
 - 楢山
 - 化気
 - 箭田
 - 安仁神社
 - 両山寺
 - 松尾山
 - 布都美
 - 幻住寺
 - 三樹山
 - 天福寺
 - 具足山
 - 恵龍山
 - 波多
 - 祇園山
 - 八塔寺
 - 荒戸山
 - 真木山
 - 大井宮山
 - 木山
 - 新熊野・蟻峰山
 - 大原神社
 - 矢笠山
 - 仏教寺
 - 新熊野・蟻峰山
 - 千手院
 - 高原
 - 甲鷲神社
 - 高岡神社
 - 梶並神社
 - 東湿原
 - 天狗の森
 - 中山神社の社叢
 - 津黒
- 環境緑地保護地域**
 - 竜の口
 - 田の口
- 郷土記念物**
 - 曹源寺の松並木
 - 畝の松並木
 - 笠懸の森
 - 加茂総社宮の社叢
 - 吉備津の松並木
 - 西幸神社の社叢
 - 宗形神社の社叢
 - 九谷の樹林
 - 岩屋の森
 - 高良八幡の森
 - 野原の松並木
 - かしろの森
 - かいせん桜
 - 矢喰の岩
 - 福岡城跡の丘
 - 柳田八幡の森
 - 下津井祇園神社の社叢
 - 津川のタブノキ
 - 天王社刀剣の森
 - 吉川八幡の森
 - 滝谷神社の樹林
 - 龍頭のアテツマンサク
 - 金山八幡宮の社叢
 - 宮地天神社の社叢
 - 布施神社の社叢
 - 御前神社の樹林
 - 山形八幡神社の森
 - 徳蔵神社の樹林
 - 四之宮八幡の森
 - 水内八幡の森
 - 高岡熊野神社の森
 - 星尾神社の社叢
 - 岡見山の樹林
 - 大村寺のクロマツ
 - 下和の一本松
 - 皆木のマンサク
 - 物見神社の社叢
 - 善福寺のツバキ
 - 神田神社の社叢
 - 宝蔵寺の森

※1:絶滅の危機のある野生動植物のデータ集 ※2:生物が安定的に生息できる空間

第6章

おかやま環境レポート2005

地球環境を守ります

オゾンホールや酸性雨、熱帯雨林の減少など、さまざまな課題を抱えている地球環境。中でも温室効果ガスによる地球温暖化の進行は、最も重大な問題となっています。岡山県では「地球温暖化防止」を重点プロジェクトに設定。地球を守る県民レベルの省エネ運動を推進するとともに、自然環境と調和したクリーンエネルギーの活用などの地球温暖化防止に取り組んでいます。

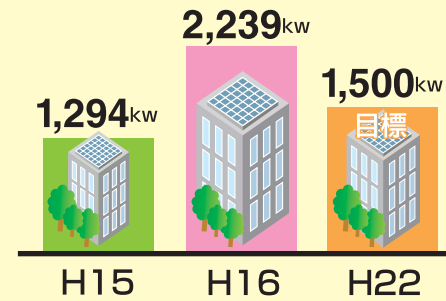
県民参加

●太陽光発電の推進

「晴れの国」の陽光が続々と電気を作っています。

化石燃料を使わないクリーンエネルギーとして、太陽光発電の普及を推進。県の施設へ率先的に導入し、また民間への導入も支援しています。

太陽光発電による総出力電力
(公共及び民間施設)



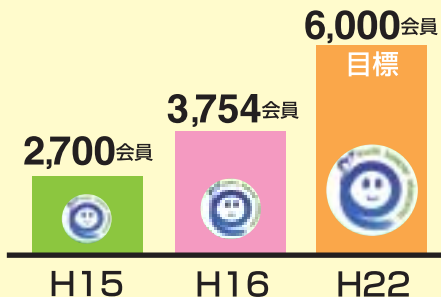
●エコライフ・エコオフィスの推進

アースキーパーメンバーシップ会員に多くの県民や事業所が参加しています。

地球温暖化を防ぐため、自主的に取り組む個人や事業所を「アースキーパーメンバーシップ会員」として登録。平成16年度末現在で3,754の県民・事業所が加入し、身近でできる省エネなど、環境への負荷を減らす取組を実践しています。

県民参加

アースキーパーメンバーシップ会員数

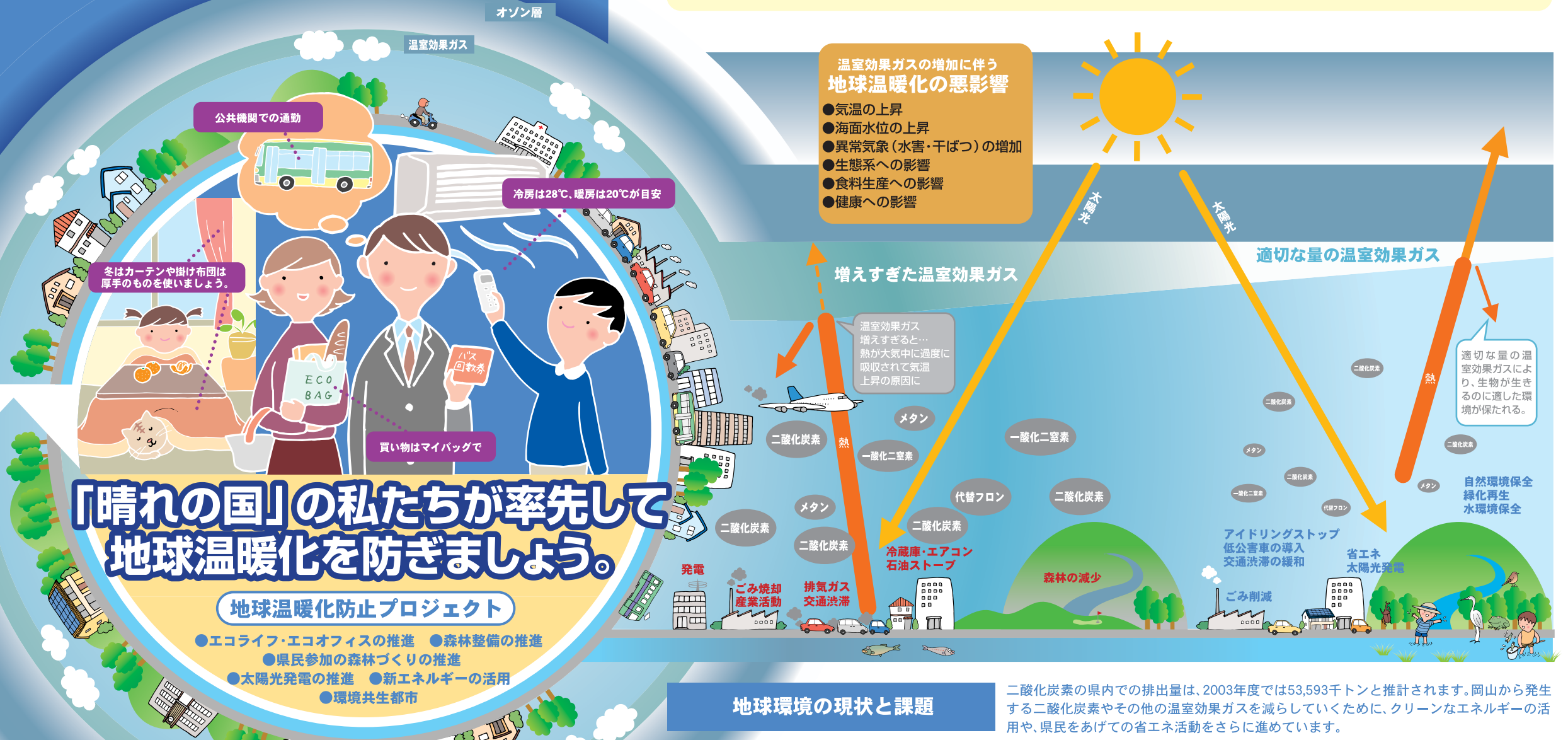
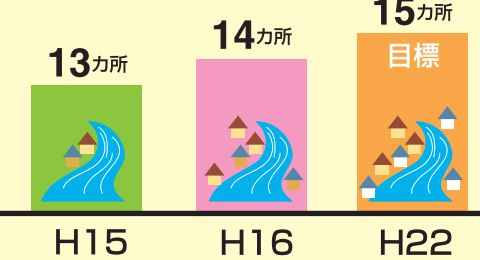


●新エネルギーの活用

環境にやさしい未来のエネルギー開発も進行中です。

環境を汚さないエネルギー源として、小水力発電等を積極的に推進。また、バイオマス等新エネルギーの研究も進めています。

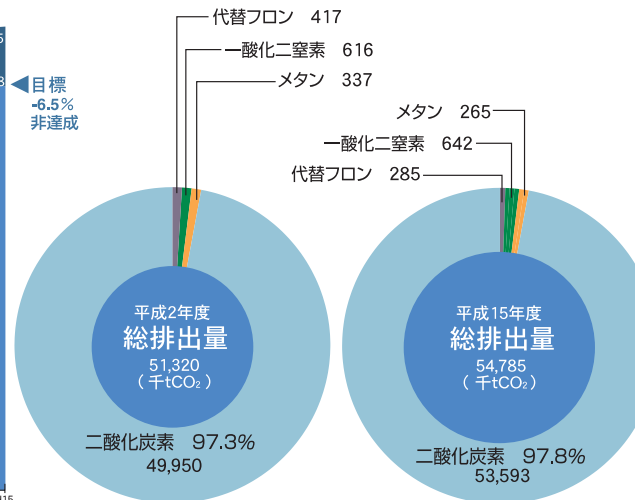
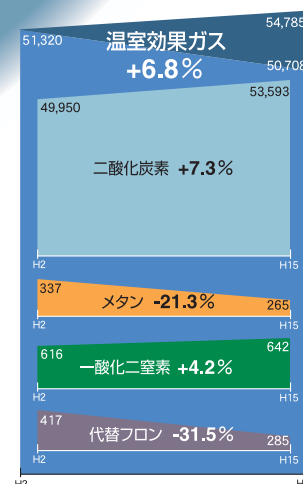
小水力発電所設置数



地球環境の現状と課題

二酸化炭素の県内での排出量は、2003年度では53,593千トンと推計されます。岡山から発生する二酸化炭素やその他の温室効果ガスを減らしていくために、クリーンなエネルギーの活用や、県民をあげての省エネ活動をさらに進めています。

●温室効果ガスの排出状況と削減目標



●岡山県と全国の部門別二酸化炭素排出量

